プッチーニが愛した蝶々さんは
世界中から愛される女性となりました
蝶々さんが命を懸けて愛し、
日本人として信じた道を突き進んだが故の悲劇。
ハンカチを持ってご来場ください。

指揮
神尾 昇（かみお のぼる）

演出
大島 尚志（おおしま たかし）

ピアニスト
うえだよう

一味違った「蝶々夫人」の幕が上がる

時は1890年代、舞台は長崎の港を見下ろす丘に立つ家。アメリカ海軍士官のピンカートンは、日本人の芸者蝶々さんとの結婚を「お金」で買います。ピンカートンには遊びの結婚でしたが、蝶々さんは本気の結婚でした。

蝶々さんはこの時15才。結婚を心から喜んでいました。

結婚生活も束の間、ピンカートンがアメリカに帰ってしまいます。彼が去って3年が経ち、蝶々夫人の生活は困窮していました。「他の男の妾になれば」という助言もありますが、蝶々夫人はピンカートンを信じて彼の帰りをひたすら待ちます。そんな折、長崎の港にピンカートンの所属する軍艦が入港したのを確認します。大きな喜びの中、彼の帰りを待つのでした・・・。

出演キャスト

蝶々夫人
島村 侑子（しまむら ゆうこ）

F.B.ピンカートン
吉見 佳晃（よしみ よしてる）

シャープレス
岡 昭宏（おか あきひろ）

スズキ
新宮 由理（しんぐう ゆり）

ゴロー
須藤 章太（すどう しょうた）

ケイト・ピンカートン
小西 佑里香（こにし ゆりか）

蝶々夫人の息子
櫛田 暖人（くしだ はると）

稽古ピアニスト・スタッフ

岩崎 能子（いわさき よしこ）

河崎 恵（かわさき めぐみ）

ケイトから見た蝶々さんという女性を、ケイトのお話によって、過去を振り返りつつお届けいたします。
ケイトのお話から、その時の状況が分かりますので、オペラ初心者の方でも安心です
出演者一同で、皆様に感動をお届けいたします。

舞台監督：小田原築（アートクリエイション）
字幕：水野明人

2022.10.1

ご芳名＿＿＿＿＿＿＿＿様
〒＿＿＿－＿＿＿＿
チケット枚数　一般：＿＿枚/ペア券：＿＿枚学生：＿＿枚
ご住所：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
お電話：＿＿＿＿＿＿＿＿
メール：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

チケットのお申し込みは上記にご記載の上、下記ファックス番号までお申込み下さい。
後程こちらからチケットと振込用紙を送らせて頂きます。　Fax. 0120-921-881